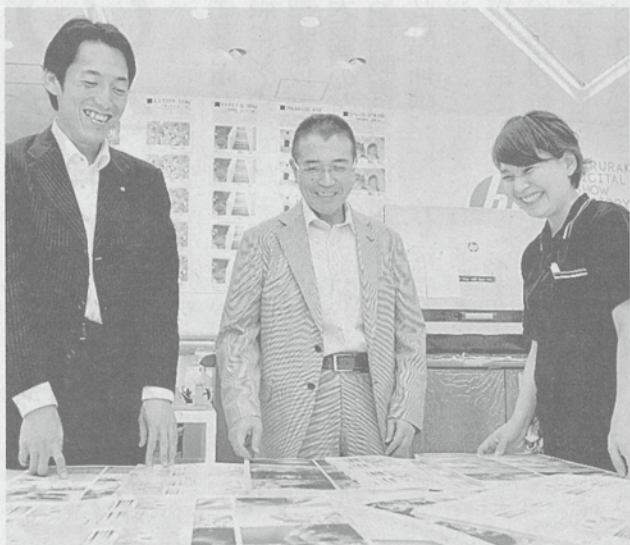


温かみ、趣伝え 紙業界元気に



紙イベントの準備に取り組む林部長（中央）ら丸楽紙業の社員—大阪市中央区上町1の同社展示室で

する。

丸楽紙業では12年に最新の印刷機を導入。それをきっかけに近くに印刷機や紙見本の展示室を開設した。ここを利用して、紙の面白さを伝えられないかと社員らが案を出し合い、イベントを考えた。

紙の温かみや趣を伝えたい—創業74年の老舗紙問屋「丸楽紙業」（大阪市中央区上町1）が9日から11日まで会社の展示室を一般開放。印刷技術も体験できるイベントを開く。ペーパーレス化の流れなどで低迷する紙業界に、元気を取り戻す試みだ。

業界を取り巻く環境は大きく変化した。日本製紙連合会（東京都）によると、紙板紙の内需は約3000万ト台で推移していたが2000年をピークに減少傾向となった。さらに09年のリーマンショックで大幅に下落、ここ数年は約2700万ト台となった。連合会は「国内景気の低迷や企業の情報通信化の流れが大きく影響している」と分析

老舗問屋・9日から 展示室開放しイベント

イベントでは、最新の印刷機2機を使って写真画像の印刷を実演、色の表現力や印刷スピードなどの技術を披露する。紙質の違いや特徴を体験できるよう、10種類の紙も展示する。さらに、紙の製造方法や歴史など基礎知識が学べる講座、プロ写真家による撮影や印刷方法のセミナーも準備した。同社の林茂男営業部長（56）は「紙の奥深さを知ってもらいたい」と期待を込める。無料。講座は事前申し込みが必要。問い合わせは同社（06・6762・5291）へ。

【向畑泰司】